



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

長野西ロータリークラブ



例会 毎週金曜日 12:30~13:30 ホテル国際 2 1
事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016
e-mail:nwrc@sweet.ocn.ne.jp

会長／井上 明彦 幹事／南 信行 クラブ会報委員長／関 幸博
SAA／小池 裕孝 副 SAA／村田 秀雄

第1284回例会 2014年（平成26年）2月28日（金）例会場16階ブーランジェ

ロータリーを実践しみんなに豊かな人生を
ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

会長挨拶 井上明彦会長

「朝茶と春の香り」

雪の下、露の臺が春の日差しを待っていたかのように姿を現しています。露の臺の香りと苦み、その味噌汁とふき味噌を楽しみました。ようやく春を感じます。

ゲストの北村優子さんようこそ。ロンドン、バングラデシュ、ネパールでと海外各地で活躍されていますが、その異文化での経験を興味深くお聞きします。

今日の朝、皆さんのスタートは coffee ですか 緑茶ですか、それとも？

「朝茶はその日の難を逃す」との言い伝えがあります。朝はきぜわしい。だから一杯の茶を飲む、その心のゆとりが事故やけがを防いでくれる。お茶の鎮静効果もあるようです。

ちなみに80歳でエベレスト登頂に成功した三浦雄一郎さんは8,000メートルを超えるベースキャンプで、お茶会を楽しんだといいます。極限での余裕、ゆとりが偉業に導いたといえます。今朝の私はというと、一杯の朝茶を楽しみ、菅平は根子岳から昇る朝日に手を合わせ春の陽の温もりを感じました。まさに心豊かな一時でした。

今日の例会も楽しくお付き合いください

幹事報告 南 信行幹事

＊第8回クラブ協議会報告

- ・世界寺子屋キャンペーン 書き損じハガキ回収で155枚を80円切手101枚（8,080円）と交換し日本ユネスコ協会連盟に送付しました。ご協力ありがとうございました。
- ・3月ロータリーレート 1ドル=102円。

次期地区役員・委員への委任状伝達

地区諮問委員ほか5委員会：綿貫 隆夫 P G
地区諮問委員：山田 友雄 P G
ロータリー財団監査委員：柄澤 重登さん
R L I 委員：飯田 弘己さん
青少年育成 P 危機管理副委員長：高井新太郎さん
インターアクト委員：清水 光朗さん
地区社会奉仕委員長：伊東 義次さん



3 / 7 本日のプログラム

会員卓話 北川原 健さん
「歯が割れる！」

- ・ 山口和彦さん・高橋英司さん☆北村優子さん、歓迎します。バングラデシュでは大変お世話になりました。又行く機会がありましたら行きたい国です。
- ・ 伊東義次さん☆NAGANO検定に勉強しないで合格しました。運がいいとしか言えません。“ラッキー！”
- ・ 大橋東二郎さん☆長野商工会議所だより3月号に私のインタビュー記事(ピロリ菌について)が載っております。お急ぎでない方はお読みください。
- ・ 松本克幸さん☆北村さんようこそ。☆熊本城マラソンは大雪のため不発でした。親孝行する事ができませんでした。

・ 合計 16,000円 ・ 累計 474,505円



初めて16階ブーランジェにて例会をしました

親睦ゴルフについて 中野欣哉会員家族委員長

2月23日は大雪の為、ゴルフ場の関係で延期となりました。ついては早春親睦ゴルフということで3月22日(土)に開催させていただきます。もう延期はないと思いますが・・・ふるってご参加下さい。

講師紹介 松本克幸さん

北村さんは、ロータリー国際親善奨学生として、2008年9月から1年間、ロンドン大学教育研究所博士課程に留学され、教育と国際開発についてバングラデシュを事例に研究されました。その時に当クラブがスポンサークラブとなったご縁で、その後、IM、IA地区大会等で講師をお願いし、またバングラデシュにも、山口和彦さん、高橋英司さん、粕尾正康さんに、同行していただきご尽力いただきました。今は結婚され、長野在住となり、春からは母校の文教大学へ非常勤講師として週二回通う傍ら、就職活動をするそうです。

ゲスト卓話 北村優子さん

「異文化との出会い・葛藤・適応」

大学卒業後は日本よりも海外での生活期間が長くなりました。海外長期滞在を羨ましがられることもあります。実際には楽しいことばかりではなく異文化での生活に悩むこともあります。今までの「当たり前」が通用しない環境では強いチャレンジ精神が求められる中、国際親善奨学生として異国にいるという誇りが支えとなったことは言うまでもありません。



異文化へ適応していく過程についてさまざまな研究がなされていますが、リスガードが提唱したU字曲線やガラホーン・ガラホーンが提唱したW字曲線を引用しながら自己体験談をお話させて頂きました。現地到着直後は、これから始まる新しい生活への期待が強く適応しようとする「ハネムーン期」、徐々に生活に慣れ冷静に異文化環境を把握できるようになり不満(ストレス)が募り落ち込む「(適応)ショック期」を経て、回復し「安定期」へと至ります。また帰国後は、自文化への再適用過程で同じようなことが起こると言われています。私自身も、「日本の方が良い!」、「〇〇国の方が良い!」という場面を繰り返しつつ、現在自分の置かれている環境に適応していく過程を繰り返しています。結果的に異文化への寛容性を育むことができ、自文化への愛着も増したと言えます。今後はこれらの経験を教育実践していきたいと思います。

<バングラデシュ支援・交流の報告とお礼>

2011年開催のIMセミナー後に皆様からの支援物資をバングラデシュ国内(ダッカ、ジョソール、シャットキラ)の複数団体へお届けすることができましたことに心より感謝いたします。現地では、「自分たちに関心を持ってもらえて本当に嬉しい」という言葉を幾度となく掛けられました。農村部の高校を訪問した際には、ロータリアンの方の前にサインを求める行列ができていました。今後も何かの形で交流が続いていけばと期待しています。

例会案内

3月14日 ゲスト卓話 渡辺 隆一さん
(信州大学教育学部特任教授)